



近畿財務局 総務部 総務課 総務第1係長 乾 浩樹

平成18年採用（国家Ⅱ種）

経済調査の業務に携わっていた期間（令和2年7月～令和4年6月）

◆ 業務内容

経済調査課では、各種経済指標等をもとに地域の経済情勢を判断する「管内経済情勢報告」、法人の決算内容等を調査する「法人企業統計調査」、法人の景況感等について現状や今後の見通しを調査する「法人企業景気予測調査」を行っており、私はその中の「法人企業景気予測調査」を担当していました。具体的には、四半期に一度、無作為抽出等により選定した法人(全国で約1万4千社)



（筆者は奥左側）

に対して調査票への回答を依頼し、回収した調査票を集計、分析し、その結果を記者発表やホームページ掲載等により発信しています。調査内容は、法人の景況感のほかにも従業員数や設備の過不足状況を伺うものなど多岐に渡っており、調査結果は、政策の企画・立案に役立てられているほか、地域の皆様にも広く活用していただいています。

◆ 業務のやりがい

調査票への回答を依頼する法人は、様々な規模・業種に分かれており、内容に応じて法人へのヒアリングも行うため、常日頃から幅広く情報を収集しておく必要があります。そして、集計結果の分析においては、規模・業種ごとの傾向だけでなく、過去からの推移等も確認する必要があるため、最新の情報だけでなく過去の情報についても一定把握しておくことが求められます。ただし、情報収集により知識を蓄積した分だけ深度ある分析を行うことができるため、努力の成果が現れやすい業務だと思います。

また、集計結果を分析、整理し発信するまでは、ミスの許されない緻密な作業の連続となりますが、発信した内容が新聞等に掲載されると、世間における関心の高さや自身の業務の重要性を再認識させられるのと同時に、大きな達成感を感じることができます。

◆ 財務局の魅力

財務局では経済調査以外にも財政、金融、国有財産といった様々な業務を所管しており、採用後はそれらの業務を幅広く経験することができるほか、さらに専門性を高めたい場合には財務省や金融庁へ出向する選択肢も用意されています。

また、私は大学で理系の学部だったため、経済や財政、法律等の知識は皆無でしたが、各業務に応じた研修が組まれているほか、上司や先輩から丁寧に指導してもらえるため、知識面で不利に感じることはありませんでした。

財務局の業務に少しでも興味があれば、財務局を志望してみませんか。

